Roland V-Drums VH-10 V-Hi-Hat

取扱説明書　日本語

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に別紙の『安全上のご注意』と『使用上のご注意』をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

同梱物の確認

パッケージを開けたら、同梱物に不足がないか確認してください。不足しているものがあったときは、購入した販売店へお問い合わせください。

- 取扱説明書
- 保証書
- 『安全上のご注意』チラシ

※ ハイハット・スタンドは別売です。

主な特長

アコースティック・ハイハットと同じような打感触

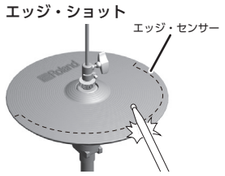
市販のハイハット・スタンドに取り付け可能な 1 枚シンバルのフローティング構造のため、スティックの跳ね返りや叩いたときの揺れ、ペダルの踏み込みによるシンバルの上下動作など、アコースティック・ハイハットと同じような演奏感が得られます。打面には、消音効果のあるゴムを使用しています。

オープン／クローズ

ハイハット・スタンドのペダルの踏み込み具合により、オープンからクローズまで音色が滑らかに変化します。フット・クローズ（ペダルを踏み込んで鳴らす）やフット・スプラッシュ（ペダルを踏み込んで瞬時にオープンして鳴らす）も可能です。ドラム音源 TD-50 ／ TD-25 に接続すれば、クローズの状態で叩いて瞬時にオープンしたときの音色変化も表現できます。

エッジ・ショットが可能

エッジ部にエッジ・センサーが内蔵されているので、ボウ部（上面部）とエッジ部（端部）を叩き分けることが可能です。

奏法	説明
ボウ・ショット	ハイハットの打面を叩く奏法です。接続したトリガー・インプットのヘッド側の音色が鳴ります。
エッジ・ショット 	ハイハットのエッジ（端）をスティックのショルダー部で叩く奏法です。図のエッジ・センサーの位置が叩かれたときに、接続したトリガー・インプットのリム側の音色が鳴ります。

ペダルの自然な踏み心地

ペダルの踏み込み具合やハイハット・スタンドのバネの強さを調節することにより、好みの踏み心地が得られます。

セッティングする

ハイハット・スタンドに取り付ける

1. ハイハット・スタンドに付属しているクラッチをシンバル・ロッドから取りはずします。

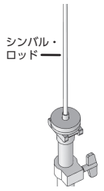
※ ハイハット・スタンドに付属のクラッチは使いません。

※ ハイハット・スタンドの、ボトム・シンバルを載せるシンバル受け部分のフェルト部品（あるいはゴム部品）を取りはずす必要はありません。

2. シンバル・ロッドがしっかり締めつけられていることを確認します。

シンバル・ロッドの締めつけかたについては、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

※ シンバル・ロッドがゆるむと、ハイハットが振動したり回転したりして安定せず、誤動作の原因になります。



3. 防振プレートをシンバル・ロッドに通してハイハット・スタンドのシンバル受け部分のフェルト部品（あるいはゴム部品）の上に載せます。

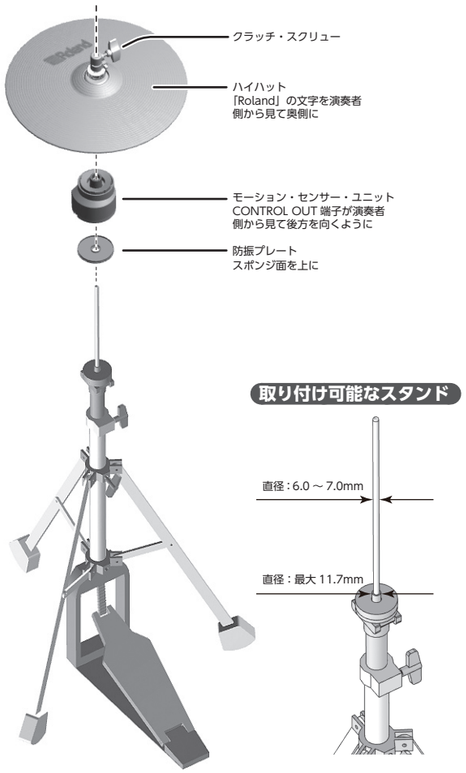
防振プレートのスポンジ面を上側にします。

4. モーション・センサー・ユニットをシンバル・ロッドに通して防振プレートの上に載せます。

CONTROL OUT 端子を演奏者から見て奥側にします。

5. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをシンバル・ロッドに通してモーション・センサー・ユニットの上に載せます。

ハイハットには正しい向きがあります。「Roland」の文字を演奏者側から見て奥側にしたときに、最適な感度が得られます。

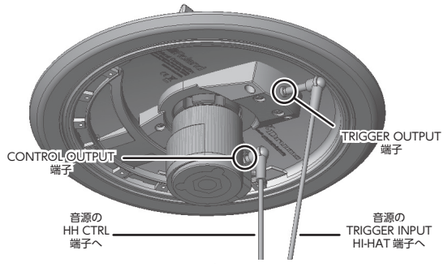


※ 本機を裏返すときは、破損を防ぐためクラッチ部やセンサー部などを保護してください。また、落下や転倒を引き起こさないよう取り扱いに注意してください。

音源モジュールとの接続

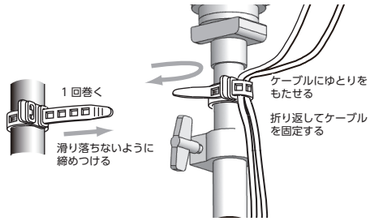
他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

1. VH-10 の TRIGGER OUTPUT 端子を音源の HI-HAT 端子またはケーブルに、VH-10 の CONTROL OUTPUT 端子を音源の HH CTRL 端子またはケーブルに接続します。



※ ステレオ（TRS）・ケーブルで接続してください。モノ・ケーブルをご使用になると、エッジ・ショットに対応できません。

2. ケーブルにゆとりをもたせた状態にして、ロック付きタイで固定します。



TD-17 と VH-10 のオフセットの調整

ハイハットのオープン／クローズを正しく表現するためには、VH-10 のオフセット調整が必要です。
ここでは、TD-17 と組み合わせて使用する場合の調整方法を説明します。

1. VH-10 が TD-17 に正しく接続されていることを確認します。

2. ハイハットがモーション・センサー・ユニットから完全に離れた状態で、TD-17 の電源を入れます。

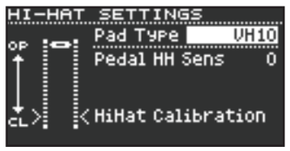
※ ハイハットがモーション・センサー・ユニットに触れた状態で電源を入れると、正しく調整できません。

3. クラッチ・スクリューをゆるめ、ハイハットをモーション・センサー・ユニットの上に自然に置いた状態にします。

4. ［SETUP］ボタンを押します。

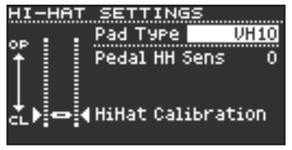
5. ダイヤルで「Hi-Hat Settings」を選び、［ENTER］ボタンを押します。

6. ダイヤルを回して、Pad Type「VH10」に設定します。



7. 画面に表示されるメーターを見ながら、VH のオフセット調整ネジを回して調整します。

メーターに［▶◀］が表示されるように調整します。



8. 必要に応じてその他のパラメーターを調節します。

その他の音源モジュールでの設定

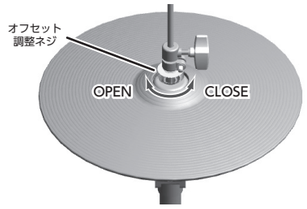
1.「Trigger Type」を「VH-11」に設定します。

2. 前項手順 7 のように、オフセット調整ネジを回して調整します。

3. 必要に応じて、その他のパラメーターを調節します。

オフセット調整の目安

クローズド・ハイハットの音が鳴らしづらい場合は、オフセット調整ネジを「CLOSE」の方向へ回します。オープン・ハイハットの音が鳴らしづらい場合は「OPEN」の方向へ回します。

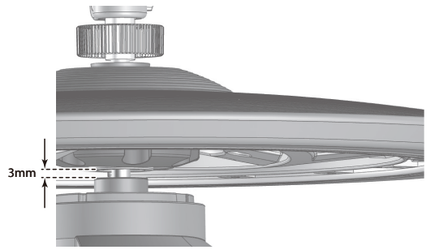


ご注意！

強打時に音が途切れるときは、オフセット調整ネジを「OPEN」の方向へ回してください。

ハイハットの調整

1. ハイハット下側中心の成型部品とセンサー中心部先端との間隔を 3mm 程度に調整し、クラッチ・スクリューを締めつけます。



※ 間隔は、演奏しやすい距離に調節できますが、狭すぎたり広すぎたりすると誤動作をし、思いどおりに演奏できないことがあります。3mm が最も自然な感じで VH-10 を演奏できる間隔です。

2. ペダルのバネのテンションを、ハイハット・スタンドで調節します。

テンションの調節方法については、お使いのハイハット・スタンドの取扱説明書をご覧ください。

※ バネのテンションが強すぎたり弱すぎたりすると、誤動作を起こし、意図した演奏ができないことがあります。

※ スタンドによっては、調節できない場合もあります。

ご注意！

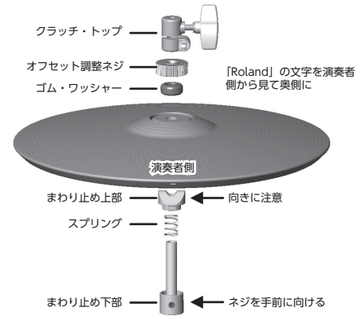
ハイハットには正しい向きがあります。「Roland」の文字を演奏者側から見て奥側にしたときに、最適な感度が得られます。

ハイハット・クラッチをはずしてしまったときは

誤ってハイハット・クラッチをハイハットからはずしてしまった場合、以下の図のように組み立て／取り付けてください。

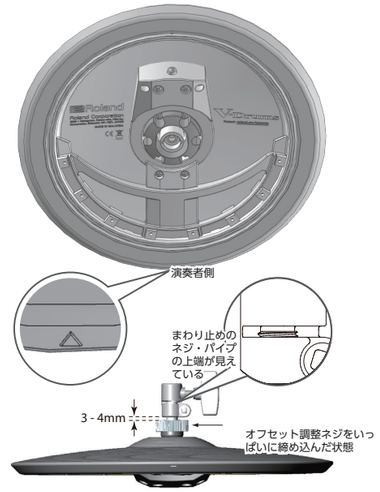
ご注意！

ハイハット・スタンドに付属のクラッチは、形状が異なるため VH-10 では使用できません。必ず VH-10 専用クラッチをお使いください。



※ まわり止め上部の山の向きをハイハットの溝に合わせてください。

正しく組み立てられた状態



主な仕様

	ローランド VH-10：V ハイハット
サイズ	12 インチ
トリガー	2（ボウ、エッジ）
接続端子	TRIGGER OUTPUT 端子、CONTROL OUTPUT 端子
外形寸法	314（幅）× 314（奥行）× 103（高さ）mm
質量	1.2kg（モーション・センサー・ユニットを除く）
付属品	取扱説明書、『安全上のご注意』チラシ、モーション・センサー・ユニット、防振プレート、ドラム・キー、ロック付きタイ、保証書、接続ケーブル（単体販売のみ）
別売品	ノイズ・イーター（NE-10、NE-1）

※ ハイハットのゴム表面が白くなることがありますが、使用上は問題ありません。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

© 2018 ローランド株式会社

ローランド株式会社　〒 431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 2036-1